育ちのあゆみを保護者と共に

～絵をみながらの育児相談の実践から～

俵積田恵美子
(別府保育園)

〔研究目的〕

高度情報化の急激な子どもを取り巻く社会環境の変化に、子育てもすっかり変容してきました。いま親となった人たちが育った環境は、物が豊かで思いのままに欲望を満たしてきた時代で、育児体験のない親には子育ては至難の業です。仕事をもつ母親は十分にかかわってやれないことへの自責感や負担感が強くなり、専業主婦は閉鎖的になりやすく、孤立感が育児のストレスになっている状況です。そして、大人中心の家庭生活は、乳幼児期に形成されるべき健全な生活習慣が歪められ情緒の安定や健康状態にも悪影響を及ぼしています。子ども一人ひとりの生活リズムが多様化したことにより、個々の発達段階にも差が生じている現状です。近年の新聞やTVなど、子どもの虐待も増加傾向にあり深刻な社会問題になっています。

昨年は「次世代育成支援対策推進法」や「児童福祉法の一部を改正する法律」が成立し保育以外にさまざまな子育て支援の推進も保育所に期待されています。

以上のような状況から、個々の家庭が多様化されてきましたので、秘密を保持することを理念に「絵をみながらの育児相談」を10年間実践してきました。最近では、父親も積極的に参加してくれますので、母親の育児不安が軽減されると喜ばれています。「育児相談」は、忙しい日常から離れてゆったりとした時間の中で、心を開けるような雰囲気になるようにしています。子育ては何度も失敗や反省を重ねながら、思いどおりにならないのがあたりまえであることを伝え、保護者が自信をもって自己流の子育てをし、共に考えながら親も育ちあえるように支援しています。

子育ての喜びを伝える具体的な方法として、子どもの絵(感情表現・つぶやき)を見ながらの育児相談を実施しています。絵があると、視覚で感情の表出を確認することができるので、その時期の内面的な情緒の安定を保護者と共感することができます。絵(心の表出)からの感情のメッセージが、実際に子どもの生活と同じであることを確認できると、保護者は素直に心を開き、子どものメッセージを受入れ、自ら親としての役割を反省してくれます。それは、親が一番身近に

いるので生活をとおして理解でき、視覚をとおして子どもの訴えを、感じてくれるのだと実感しています。10年前は希望者だけでしたが、年々増加して最近ではほとんどの保護者が積極的に夫婦で参加してくれます。それは、親自身が「共に育ちあう」ことの喜びを実際に感じているからだと確信しています。さまざまな育児情報が氾濫している時代だからこそ、「絵をみながらの育児相談」は、一人ひとりの子どもの個性を尊重しながら子育てができるので、今後ますます重要で必要な実践だと思い、研究の目的にしました。

〔方法〕

- ・「絵をみながらの育児相談」実施期間(年5回)
6月(5歳児) 8月(4歳児) 11月(3歳児)
1月(乳児～2歳児) 3月(だれでも参加)
- ・土曜日、日曜日、平日の3日間
午前9時～午後8時までの1時間を事前予約
- ・具体的手順として
 - ①相談内容がある場合は事前に担任が把握しておく
 - ②そだちのあゆみの観察記録を基に、園での子どもの様子や、絵を描いていた子どもの姿を整理して記録しておく〔育児相談個人記録〕
 - ③育児相談の助言内容や今後の対応について記録
 - ④保護者へ育児相談後の感想を書いてもらう

〔結果〕

- ・育児相談後の保護者の感想から
- 事例1. H13年 6月 3日(曜)初めて夫婦で参加した事例
初めて育児相談に参加させていただいて、いろいろと勉強になりました。私がいまだに家にはいないので、子どもと接する時間が取れず、一人ぼっちにしたこともあるからだと思います。(妻も忙しいので・・・)
今から考えないといけなことは、子どもにとって何が一番いい選択なのかを、子どもの目線で考え、一緒に見つけていける時間をつくることだと思います。そうやってお互いにいろんな意味で成長できればいいと、この会をとおして学んだような気がします。育児をパーフェクトにすることなど出来ませんが、少しでも自分の子ども、そしてまわりが最高の状態になれるよう努力していきます。あと一年余りですが子どものことを、よろしくお願いします。(5歳児の父親)

事例2. H15年 6月 9日(腫)兄弟で5回目に参加した事例
〔育児相談後の感想〕

初めて形になっている絵を見て、見た瞬間あっ！と思ひ、そしてとても嬉しく思いました。私が思ったとおり、その日楽しく何枚も描いたとのことで、本当にその時の心境を表していると感じました。普段あまり書かない子なので、親自身が自信を持って子育てをして、子どもの素直な気持ちを大切にしたいと思ひます。(5歳児の母親)

事例3. H16年 1月12日(腫)姉弟で4回目に参加した事例
〔育児相談の翌日連絡帳に記入してきた感想〕

昨日は、ありがとうございます。偶然にもこの時期に夫婦育児相談があった事、良かったと思ひます。ほとんどHまでは主人は育児にノータッチの人でしたが、Tが生まれてからは少しずつ育児にも協力してくれる様になっていました。10月からは、仕事で今までなかった挫折みたいなものもあったようで、退職も頭にあつて私も平然と装うようにしていましたが、一番不安で夫婦共々辛い日々だったのが、子どもにちゃんと伝わっていたのですね、当たり前といえばそうですね、大好きな父と母が悲しんでいる事が一番そばにいる子どもたちに伝わらないはずがないですよ。3ヵ月の間に、初めて主人が子どもたちの前で、電話台とかテレビを投げ暴れた事がありました。その事も大きな傷となっているのでしょうか・・・今は時々子どもたちからその事を言われて、主人も「しまった」と思っているでしょう！昨日も帰ってから、何を思ったか、Tと二人で空き缶を棒で叩き、Tと長い間遊んでいました。自分が何とかしてTのモヤモヤを取り除こうとしたのでしょうか。Tも「スカーッ」としたのでしょうか？夕食も自分でモクモク食べていました。きっと主人と一緒に自分と遊んでくれた事が嬉しかったのでしょうか。お金より、仕事より、自分の大切な子どもたちが辛い思いをしている事が一番親にとって辛い事なんだと改めて知ったような気がします。主人も今は仕事も少し落ち着いて、2月に前の所に移動できるのではと思ひているようです。Tの事いろいろと気づいてくれていて、ありがとうございます。次の夫婦育児相談が笑顔で受けられるように主人と頑張りたいと思ひます。(2歳児の母親)

〔考察〕

事例1は、父親が初めて参加したのですが、絵をみながらの育児相談を通して、父親の役割を自ら反省し

「お互いにいろんな意味で成長できればいい」と父親なりに気づいてくれました。事例2は、何回も参加している母親ですが、絵を「見た瞬間あっ！」と感じ、自ら「子どもの素直な気持ちを大切にしたい」と母親自身が子どもを信じる喜びを、絵をとおして感じたことで自信となりました。事例3は、いつも夫婦で参加してくれる保護者ですが、次の日に自ら連絡帳に感想を書くことで、子育ての自己判断と自己決定をしている様子が伺え、育児相談のねらいが達成されている事例です。「偶然にもこの時期に夫婦育児相談があった事、良かったと思ひます。」育児相談をとおして「お金より、仕事より、自分の大切な子どもたちが辛い思いをしている事が一番親にとって辛い事なんだと改めて知ったような気がします」と、親なりに自己判断し反省しています。すぐにお父さんが実践したことで子どもにその効果が現れ、嬉しくなって感想を書きより一層子育てに意欲と希望を持ってくれました。

「絵をみながらの育児相談」は①保護者が自分を信じて自信を持って子育てができること②保護者が絵をとおして子どもの成長を喜び、子育てを楽しみにできること③保護者が自分なりに考え判断することで、自律した子育てができることを最終目標にしています。

10年間の実践をとおして、園は子育ての応援団的立場ですから、保護者が育児相談を楽しみにして、回を重ねながらその子にあった子育てを、共に考えあい支援することが一番大切なことだと実感しています。また、保護者に子育ての喜びを感じてもらえるように「そだちのあゆみ」の成長記録を4期に分けて、育ちの様子が成長と共に確認できるようにファイルしました。これからは「絵を見ながらの育児相談」を受けることによって、保護者の気持ちがどのように変化し、それが子どもの絵(心の表出)にどのように影響するのかを、個々の成長記録を継続しながら、さまざまなデータを分析し、保護者の心理状態が子どもの心理に及ぼす影響を実証していきたいと思ひます。

また、一園二校という環境の中で次世代育成を考えると、保育園で育った子どもの追跡調査も必要とされる時代となりました。昨年、小学校や中学校との連携を深めながら次世代育成ができるように「別府の子どもを共に考える会」が発足しました。この会をとおして、一人ひとりの子どもの育ちが、地域の中で保障されるように、より一層努力していきたいと思ひます。